

(2024年02月16日)

配偶者間の良い関係と安心感のある良い家庭

あらゆる賞賛は、**アッラー**のもの。**アッラー**でなくして、人々が崇拝するものは存在せず、**アッラー**には、共同者はないことを証言する。また、**ムハムマド**は、**アッラー**のしもべであり、使徒であることを証言する。

信者たちよ。**アッラー**は、**クルアーン・悔悟章**及び**ビザンチン章**において述べておられる。

「その御方こそは、一個の魂（**アダム**）からお前たちを創られた御方であられる。…」(7章 189節)

「また、その御方がお前たち自身から、お前たちのために配偶を創られたのは、その御方の御印の一つである。お前たちは、配偶者によって安らぎを得るよう（になされ）、お前たちの間に愛と情けの念を植え付けられる。…」(30章 21節)

この章節により、配偶者からは、慰めが得られるものであり、それで、親愛の気持ち、情けの感情、同情と愛情を持つての生活ができることが語られている。配偶者間の安心感というものは、創造物の間で求めることができる安心感の最高のものである。それは、**アッラー**からの愛の御印である。また、この安心感、家庭の幸福感と満足感を大きくし、それに伴って、配偶者相互が互いの価値を見出し、敬意が生じる。そして、互いの努力に対して感謝の気持ちが沸き、献身的、犠牲的な行いに気づくものである。配偶者は共に、相手の性格の良い面に気づき、互いに寛容となり、そうした関係性が成功へとつながる基盤となるのである。**預言者さま SAW** は、「人々の中で最良の人とは、家族、配偶者にとって最良の人のことである。」と述べられた。家庭での安心感が十分であれば、両親は、子供の育成に熱心で責任を持つものであり、子供にできるだけ最善の機会を与えようと努力し、それに対して子供たちは、両親を尊敬し敬うということとなる。

アッラーは、**クルアーン・蜘蛛章**において述べておられる。

「われは、人間に、両親に対して親切にするよう命じた。…」(29章 8節)

両親への大きな感謝の気持ちは、やがて、**アッラー**への感謝の気持ちへととなってゆくだろう。

アッラーは、**クルアーン・蟻章**において述べておられる。

「…『主よ。私（**スライマーン**）と両親に与えられた恩恵に感謝する者にして下さい。…』」(27章 19節)

アッラーよ。家族たちの愛と安心感を大きなものにしてください。私たちの集団も、そのようにしてください。満足と幸福感があり、そして、子供たちに御加護がありますように。



(2024年02月16日)

配偶者間の良い関係と安心感のある良い家庭

信者たちよ。誠に、家庭での安心感というものは、配偶者間の相互理解、対話、係わり方に依存しているものであり、愛情を基盤とした互いの相談をもとにして、それは、作り上げられる。そういう家庭の子供たちは、そうした特性を学び、推し進める。アッラーよ。安心感が各々の心に、そして、我々の集団にも実現して下さい。

預言者ムハムマド、教友とその一家に祝福と平安がありますように。そして、正当なカリフ、アブーバクル師、ウマール師、ウスマーン師、アリー師と、正しい道に従う者たちに、祝福と平安がありますように。

アッラーよ。安心感のある良い家庭を保つことができる者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。健全で敬虔な心を養う信仰行為に励む者であるように、御導き下さい。

アッラーよ。あなたさまを愛し、預言者さま SAW を愛する者であるように、御導き下さい。

アッラーよ、何時でもあなたさまを顧みて感謝し、満足を知る者であるように御導き下さい。

アッラーよ、私たちの信仰心を強くして下さい。私たちの過ちを御赦し下さい。

アッラーよ。日々の生活に活力と喜びを、そして安心と安全を御与え下さい。アーミーーン

